

3. 区别計画

区づくりの将来目標と重視すべき視点

北区

区づくりの将来目標

自然と調和した、彩り豊かな地域の魅力あふれる
活力と交流のまち 北区

区づくりの重視すべき視点

- 多様な人材が力を発揮し、持続可能な地域を築く
- まちなかや中山間地域など、すべての地域の
魅力を高め、活力ある未来を創る
- 人と人、地域と地域の交流を深める

中区

区づくりの将来目標

多様な世代がつながり、誰もが
暮らしやすさを実感できるまち 中区

区づくりの重視すべき視点

- 「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を
高める
- 豊かな地域資源をいかし、地域への愛着と
誇りを醸成する
- 多様な世代が交流し、地域の担い手が
活躍する

南区

区づくりの将来目標

実りの大地に、世代を超えて未来を育む
つながるまち 南区

区づくりの重視すべき視点

- 地域が一体となって、防災力を高める
- 地域資源を輝かせ、わくわく感を創り出す
- 地域をつなげ、快適に暮らせるまちを実現する

東区

東区

区づくりの将来目標

歴史が息づき、愛着と誇りの持てる
いつまでも住みたいまち 東区

区づくりの重視すべき視点

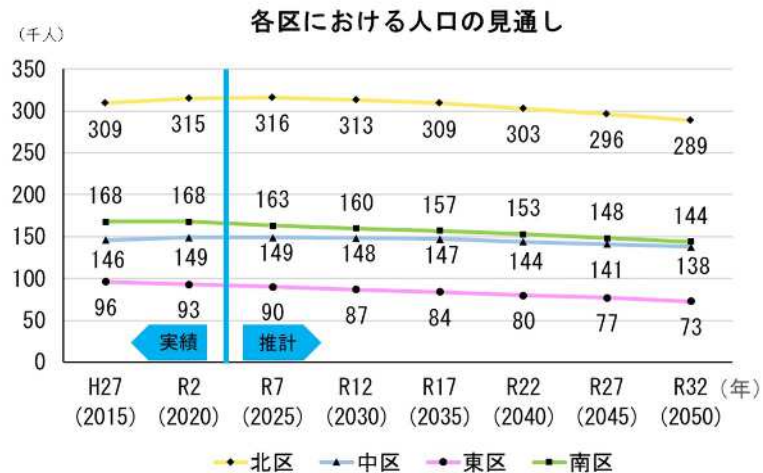
- 特色ある歴史・伝統・文化をいかし、
地域の魅力を高める
- 産業・農業を振興し、地域経済を活性化する
- 自然と共生し、より快適で安全・安心な
暮らしを実現する

各区の人口の見通しと基礎データ

北区及び中区の人口は、令和7（2025）年までは増加する見込みとなっており、令和7（2025）年から令和12（2030）年にかけて減少に転じていく見通しです。東区の人口は、既に減少局面に転じており、南区の人口は、平成27（2015）年から令和2（2020）年にかけて微減となっており、以降、減少していく見通しです。

高齢化の一層の進行により、令和27（2045）年には、すべての区で高齢化率が30%を超える見通しです。

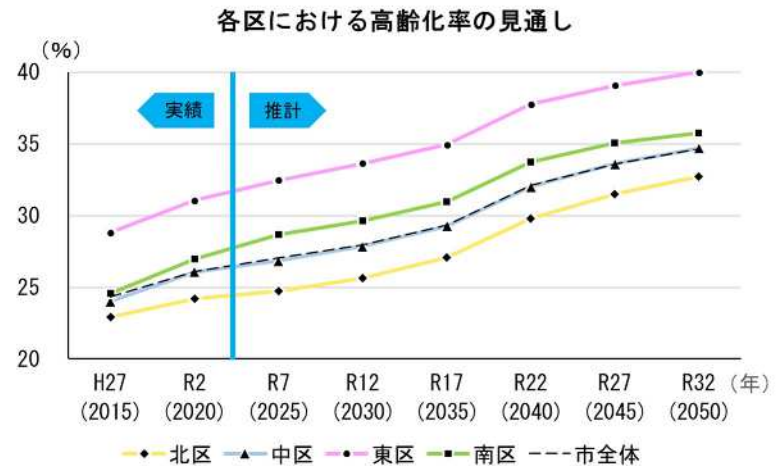
〇4区の人口推計



資料）実績値：総務省「国勢調査」（2015年及び2020年是不詳補完値による。）

推計値：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口（令和5年推計）」

〇4区の高齢化率



〇4区の基礎データ

区分	面積 (km ²)	人口 (人)	平成27～令和2年人口増減率 (%)	年齢別割合			一般世帯数 (世帯)	1世帯当たり人員 (人)	世帯の類型	
				0～14歳 (%)	15～64歳 (%)	65歳以上 (%)			夫婦と子ども (%)	単独世帯※ (%)
北区	450.70	314,523	1.6	12.7	62.5	24.7	154,998	1.97	21.1	49.9
中区	51.24	149,232	2.1	14.4	59.5	26.1	65,426	2.23	27.1	37.1
東区	160.53	93,108	-2.6	11.9	56.9	31.2	37,392	2.42	28.3	29.4
南区	127.48	167,828	-0.2	13.7	59.3	27.1	69,170	2.38	28.9	31.7
岡山市(全体)	789.95	724,691	0.7	13.2	60.4	26.4	326,986	2.16	24.8	41.1

資料）国土地理院「令和7年全国都道府県市区町村別面積調」、総務省「令和2年国勢調査」

※各データの人口には外国人を含む。

北区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・北区は旭川以西の中央部から北西部に位置し、平成17、19年の合併による旧御津町、旧建部町地域を含み、区域の面積は約451㎢と岡山市の約57%を占め、4区の中で最も広がっています。
- ・緑豊かな中山間地域と清流旭川等に沿って開けた岡山平野からなり、中心部近郊には、半田山、京山、吉備の中山など古くから生活に密着してきた里山※があります。
- ・都心部には、国、県、市の各種行政機関が集中するとともに、JR岡山駅及び表町周辺には銀行、百貨店、オフィスビル等の商業・業務機能が集積しています。
- ・JR岡山駅、岡山空港、山陽自動車道岡山IC・吉備スマートICなど広域交通網の拠点立地し、広域的な交通アクセス性に優れています。
- ・土地利用状況では、区域の約6割を山林が占めており、田や畑なども含めると自然的土地利用の割合が約8割となっている一方、広大な区域の中に都心や市街地も有しており、多様性に富んだ地域を形成しています。



岡山駅周辺

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は314,523人（市人口の43.4%）と、4区の中で最多であり、令和7年までは増加する見込みとなっています。一方で、御津地域や建部地域等の中山間地域では減少傾向にあります。

- ・直近5年間の人口動態をみると、主に社会増の縮小と自然減の拡大により令和3年からマイナスで推移しており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年1月1日現在の人口は、312,591人となっています。
- ・高齢化率は、24.7%と市平均26.4%よりも若干低いものの、北部の中山間地域では、既に高齢化率が40%を超える地域があります。年少人口比率は、12.7%と4区の中で2番目に低くなっています。
- ・1世帯当たり人員は、1.97人と4区の中で最も少なく、単独世帯※の割合は49.9%と4区の中で最も高くなっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は3.0%で、岡山市の外国人市民の約5割に当たる約8,900人が居住しています（令和6年12月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口※が夜間人口※を大きく上回り、4区の中で唯一流入超過となっています。



岡山城

<地域資源>

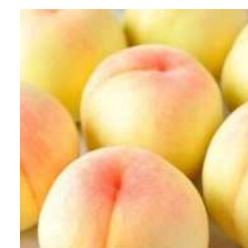
歴史・伝統・文化	・歴史・文化遺産の蓄積があり、文化財数は本市の約4分の3を占めています。 ・都心部には宇喜多家が築城した岡山のまちのルーツとなる岡山城や池田綱政が築庭した岡山後楽園があり、近年のインバウンド※需要の高まりを受け、外国人入場者数が増加しています。 ・北西部には、全国屈指の巨大古墳である造山古墳をはじめ、吉備津神社、吉備津彦神社、高松城跡、撫川城跡、庭瀬城跡、犬養木堂の生家、足守の陣屋町や近水園など古代吉備以来の歴史・文化遺産が数多く存在します。また、御津、建部地域には河原邸、成就寺三重塔等の歴史・文化遺産があり、令和5年には、建部井堰が世界かんがい施設遺産※に登録されました。 ・都心部では、吉備津彦の鬼退治の神話に登場する「温羅（うら）」を由来とする、「うらじゃ」が平成6年から開催されており、平成30年には、古代吉備の遺跡群を舞台とした『桃太郎伝説』の生まれたまち おかやまが日本遺産※に認定されました。 ・吉備津神社の宮内踊り、吉備津彦神社の御田植祭、御津地域の獅子舞フェスタ、建部地域のはっぱね桜まつり、建部祭り、志呂神社御供等の地域の伝統行事やイベントが今に受け継がれています。	特産品	・農水産物：一宮、津高地域の白桃、マスカット、ピオーネ等のブドウ、足守地域の温室メロン、牧石地域の黄ニラ、青ネギ、パクチー、御津地域の山の芋、建部地域のヨーグルト、旭川流域の鮎等 ・特産物：烏城彫り、烏城紬、撫川うちわ等
		公共施設	・都心部には、オリエント美術館、県立美術館、岡山シンフォニーホール、岡山芸術創造劇場ハレノワ、岡山シティミュージアム等の文化・芸術施設や、岡山コンベンションセンター等の交流施設が集積しています。 ・都心部に近接して県総合グラウンド、北長瀬ふれあい総合公園があり、北西部には岡山市日応寺自然の森、北部には御津スポーツパーク、建部町総合スポーツセンターが整備されています。 ・岡山大学をはじめ、多くの高等教育機関が集積しており、学生の存在が地域に活力をもたらしています。 ・北西部には岡山空港があり、空港南産業団地や岡山リサーチパークが立地しています。北部には御津工業団地があります。 ・牧山地域には、市民農園として整備した牧山クラインガルデンがあります。 ・建部地域には豊かな自然をいかしたたけべの森公園やたけべ八幡温泉、環境学習センター「めだかの学校」があります。
自然・景観	・旭川、笹ヶ瀬川、足守川、宇甘川など自然豊かな河川や、半田山、吉備中山、吉備高原に連なる里地里山があり、都心部にも西川・枝川緑道公園など水と緑をいかした公園が整備され、多くの人に親しまれています。 ・足守、津高、御津、建部地域などは市内有数のホテル生息地であり、地域住民による保護活動も活発に行われています。 ・オオタカやスイゲンゼニタナゴ、ナゴヤダルマガエル、サギソウ、セツブンソウなどの希少な野生生物が確認されており、各地域で保全活動が行われています。	主な市の出先機関	・北区役所、支所（御津、建部）、地域センター（一宮、津高、高松、吉備、足守）、土木農林分室 ・福祉事務所（北区中央、北区北）、保健センター（北区中央、北区北） ・公民館（足守、一宮、大元、岡山中央、北、吉備、京山、岡輝、岡西、高松、建部町、津高、御津、御南西）



造山古墳



サギソウ



白桃

区の概況図（北区）



凡例	● 地域資源
	● 市庁舎等
	● 公民館
	● 公共施設等
	● その他



拡大図

2 現状と課題

<特色ある地域づくり>

- ・地域の魅力や特色をいかしたまちづくりを実現するためには、区民と行政が区づくりの目標や課題を共有し、協働して地域の活性化や地域課題への対応に取り組む必要があります。
- ・中山間地域では自然や農産物、吉備路周辺や足守地域では歴史・文化遺産、一宮、津高地域では白桃やブドウ等の特産品など、それぞれの個性をいかした地域づくりを進めています。
- ・まちなかでは歴史・文化・芸術の集積をいかした魅力の創出や、「おかやまアーツフェスティバル」など、身近な場所で様々な文化芸術に触れ、親しむことができる機会の提供を行っています。
- ・西川緑道公園等でのNPO※や市民団体が主体となった取組が、まちなかの魅力と賑わい創出につながっています。
- ・各地域において、多様な主体の力をいかしながら、地域の文化財、伝統行事や貴重な自然、文化・スポーツ施設などの地域資源を活用した地域の活性化を進めるとともに、特に子どもの地域への愛着と誇りを醸成していく必要があります。
- ・北区の魅力を掘り起こし発信するため、まちづくりアンバサダー※との協働によるイベントの実施や、地域の歴史・文化遺産の由来等を紹介する「岡山歴史のまちしるべ」の看板設置、Instagramの活用等を行っており、引き続き積極的な情報発信に取り組む必要があります。



区独自企画事業

<コミュニティ>

- ・地域活動の中心となる町内会への加入率は減少し続けており、4区の中で最も低くなっています。

- ・学生や単身者が多く、1世帯当たりの人員数が4区の中で一番少なくなっています。
- ・外国人人口の割合が4区の中で一番高く、外国人市民と共生できる地域づくりを進めていく必要があります。
- ・中山間地域をはじめ高齢化率が40%を超える地域も存在し、固有の歴史・伝統・文化の継承を含め、地域コミュニティの後継者を育成していく必要があります。

<健康づくり>

- ・健康市民おかやま21※の推進体制をいかして、公民館等を拠点として地域の実情にあわせた健康づくりを行っています。さらなる活動の充実のため、若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化し、地域、企業、学校園、各種団体等との連携を深めていく必要があります。

<防災・防犯>

- ・旭川、笹ヶ瀬川流域で甚大な浸水被害をもたらした平成30年7月豪雨をはじめ、近年、頻発している集中豪雨等を受け、令和5年には今保、白石ポンプ場の整備を実施するなどハード面からの対策に加え、ソフト面の対策も推進しています。また、丘陵部では今後も土石流やがけ崩れ災害が発生するおそれがあります。都心部では雨水排水の役割も担う下水道施設の老朽化が進んでいます。今後も国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進めていく必要があります。
- ・防災意識の高揚を図るため、ハザードマップ※の全戸配布や出前講座※の実施など行っています。
- ・まちなかへの通勤・通学者が多いことから、地震等で交通機関が不通になっ



今保ポンプ場

た際の帰宅困難者への対応について、大規模集客施設等と協定を締結しています。

- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施しており、引き続き取り組んでいく必要があります。
- ・区民千人当たりの刑法犯認知件数※は、4区で最も多くなっており、警察署と合同で防犯啓発活動を実施するなど、地域の防犯力の向上に取り組んでいます。
- ・各地域では、安全・安心ネットワーク※、防犯ボランティア団体等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体で構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。また、自主防災組織※数は人口、世帯数からみると十分ではなく、さらなる結成を促す必要があります。
- ・今後より一層地域における防災・防犯活動への支援や参加促進、事業者との連携強化等により、防災・減災、防犯力の高い地域づくりを進めていく必要があります。

<産業等>

- ・産業別の付加価値※額は、第3次産業の割合が約8割と4区の中で最も高く、その中でも、卸売業・小売業の付加価値額が最も高くなっています。
- ・多彩な農産物が生産されている特性をいかし、付加価値の高い高収益な農業の実現をめざしていくことが求められています。また、御津、建部地域等の中山間地域をはじめとして、農業の後継者不足が問題となっており、農家戸数は減少傾向にあることから、新たな担い手の育成や農地の集積・集約化、鳥獣被害対策等に取り組む必要があります。

- ・ハレノワのオープンや、ハレまち通り、駅前広場の整備、活発な民間再開発事業によりまちなかの人の流れは大きく変わってきており、商店街のさらなる魅力向上・活性化を促進するため主体的な取組を後押ししていく必要があります。
- ・高速インターチェンジや産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。

<交通>

- ・各地域からまちなかへの交通では、バス路線の再編、利用環境の改善等を実施しています。引き続き利便性の高い公共交通や渋滞のない自動車交通に向けた取組が必要となっています。
- ・まちなかでは、ハレまち通りの整備が完了するなど、歩いて楽しい都市空間づくりが進められています。引き続き、路面電車の岡山駅前広場乗入などの公共交通の充実や歩行者にやさしい空間づくり、自転車利用環境の向上により、賑わいをつなぐ回遊性の向上を図る必要があります。
- ・中山間地域では、現在、御津、建部地域、足守地域及び馬屋上・野谷、牧山地区で生活交通※が運行されています。今後の高齢化や人口減少の進行により、その他の地域においても車の運転が困難な高齢者等の交通弱者の増加や公共交通の衰退が懸念され、買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保していく必要があります。



ハレまち通り

3 区づくりの将来目標

自然と調和した、彩り豊かな地域の魅力あふれる 活力と交流のまち 北区

北部の山間部や清流旭川をはじめとする豊かな自然と調和しながら、それぞれの地域の歴史・伝統・文化など、多様で豊かな資源を最大限にいかして、多くの人々が交流する魅力と活気あふれるまちづくりを進めます。

また、区民一人ひとりがつながりを深め、温かく支え合いながら、いきいきと活躍できる北区をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

多様な人材が力を発揮し、持続可能な地域を築く

- ・区民、NPO、事業者など、多様な力をいかし、誰もが地域の主役としていきいきと活躍できるまちづくりを進めます。
- ・地域のつながる力を高め、互いに支え合うことにより、安心して安全に暮らせるまちづくりを進めます。

視点 2

まちなかや中山間地域など、すべての地域の魅力を高め、活力ある未来を創る

- ・都心、市街地、田園、中山間地域など、各地域のそれぞれの特色をいかし、多様性に富んだ魅力を最大限に引き出し、農業の振興、企業立地の推進、賑わいの創出など、活気あふれるまちづくりを進めます。

視点 3

人と人、地域と地域の交流を深める

- ・公共交通の利便性向上や道路ネットワークの充実により、地域と地域を結びつけ、交流の促進につなげます。
- ・歴史、伝統、文化、自然、特産品など、地域資源を活用した取組や学ぶ機会の充実によって、区民の地域への愛着と誇りを育むとともに、積極的に発信することで、人と人、地域と地域がつながるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 持続可能で活力のある地域づくり

① 多様な力をいかした地域づくり

- ・地域団体等の活動を支援するとともに、NPO、事業者、大学や学生等の多様な主体との連携を進め、地域課題の解決や地域資源を活用した魅力ある地域づくりを進めます。さらに中山間地域等においては、人材の誘致及び地域住民との協力による地域の活性化促進にも取り組みます。
- ・区づくり推進事業を促進し、地域のアイデアをいかした取組や、地域住民の主体的な交流の促進・課題解決に向けた活動を支援し、地域への愛着を醸成します。
- ・区民の協力を得て、多様なニーズを取り入れながら、区役所が主体となって身近な地域課題に取り組む区まちづくり独自企画事業を実施し、地域の特色や魅力をいかしたまちづくりを推進します。
- ・単身者、学生、マンション居住者等の地域活動への参加促進や、若者の地域への関心を高める取組の実施等により、地域の新たな担い手づくりを進めます。
- ・年齢や国籍等に関わらず、誰もが参加しやすい地域づくりを進めるとともに、高齢者や子どもを地域で見守り、支え合う活動を促進します。



区づくり推進事業

② 地域における健康づくりの推進

- ・各地域での健康市民おかやま21の推進体制のさらなる充実を図り、地域の実情や健康課題にあわせ、公民館等での健康づくり講座の実施や、市民の主体的な健康づくりに向けた活動を支援します。
- ・若い世代、働き盛り世代に向けた健康づくり活動を強化するため、市民や地域団体、企業、学校園等との連携により健康づくりに関する啓発活動を進めます。

- ・区づくり推進事業のイベントにおける健康測定や健康相談、高齢者と若い世代の交流の場づくり、マラソンなどのスポーツを通じた健康増進など、地域が主体的に行う健康づくりの取組を支援します。

③ 新庁舎での窓口サービスの向上

- ・新庁舎の市民窓口サービスフロアにおいて、待ち時間の短縮、書かない窓口、わかりやすい案内表示など、市民が利用しやすい環境づくりを行います。

方向性2 防災・減災、防犯力の高い地域づくり

① 防災・減災対策の推進

- ・国、県による旭川、笹ヶ瀬川、足守川等の改修等を促進するとともに、都心部における下水道施設の計画的な改築・更新等による雨水排水機能の強化、津島地区、横井地区をはじめ、市街地等での浸水対策等を進めます。また、土砂災害については、県による警戒区域等の指定や対策工事を促進します。
- ・町内会への防災備蓄土等の配布や、事前に大雨が予想される場合の河川からの取水量の早期調整、用水路の事前水位調整等、地域間の連携によるソフト対策に取り組み、浸水被害の軽減・防止を図ります。
- ・土砂災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップの作成や防災学習会の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・自主防災組織の結成を促進するとともに、地域防災リーダー※の育成、防災訓練の支援、避難行動要支援者の個別避難計画の作成支援等を通じて、自主防災組織への支援強化を図り、組織の活性化を推進します。
- ・通勤・通学者の多いまちなかでは、大規模集客施設等や交通事業者との連携を密にし、帰宅困難者への対応をはじめ、さらなる防災対策の充実を図ります。



防災訓練

- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。

② 地域の防犯力の強化

- ・安全・安心な地域づくりを進めるため、安全・安心ネットワーク等による防犯パトロール等の自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への防犯講座の実施等により地域防犯活動の活性化を図ります。
- ・地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化し、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。

方向性3 農業の振興と企業立地の推進

① 農業の振興

- ・特産である果樹栽培での新規就農者の確保や地域特性をいかした競争力の強化など、農業を継続できる環境づくりに取り組みます。
- ・農地・農業用施設の保全活動等の地域の共同活動を促進することにより、コミュニティの再生・強化を図ります。また、商工業者等とも連携し、地域内外の人材の多様な知恵とノウハウを活用しながら、地域資源をいかした農村観光や6次産業化※等を幅広く進めることにより、地域の活性化を図ります。
- ・緑豊かな自然の中で野菜や花の栽培ができる牧山クラインガルテンの利用促進を行い、食と農業に対する理解を深めるとともに、都市住民と農村住民の交流促進を図ります。
- ・鳥獣被害対策として、農地の防護柵や捕獲檻の設置、捕獲駆除等への支援を継続していきます。



地域おこし協力隊

② 企業立地の推進

- ・高速インターチェンジや産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地域未来投資促進法※の活用や市街化調整区域※の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。

方向性4 まちなかの魅力と賑わいの創出

- ・まちなかの賑わい創出に向けて、西川緑道公園、下石井公園、旭川の水辺などの都市空間の利活用、また、今後の岡山城西の丸周辺広場及び石山公園の整備、新庁舎前広場と大供公園の一体的な整備など、魅力と賑わいの拠点づくりを進めます。
- ・ハレまち通りなどの歩行者優先の道路空間づくりを進め、まちなかの回遊性の向上を図ります。
- ・商店街等の魅力向上・活性化に向け、賑わいづくり等への支援とあわせて、空き店舗対策や新たな担い手の創出・育成等を支援します。
- ・「うらじゃ」に代表されるおかやま桃太郎まつり等の文化や食のイベントを行政と民間が一体となって進めます。
- ・まちなかや北長瀬駅周辺地区において街路樹や都市公園樹木のボリュームアップなどを進め、風格と魅力ある都市空間づくりを図ります。
- ・まちなかの美化活動を地域住民との協働により進めるとともに、ポイ捨て禁止、路上喫煙者への指導等に取り組みます。



うらじゃ

方向性5 歴史・文化など多様な地域資源の活用・発信

- ・美術館、博物館、図書館等の豊富な文化、学習施設について、利便性や魅力を高めるとともに、県等と連携して様々な学習、体験の機会を設けることにより、文化・芸術、生涯学習活動やそれらを通じた交流を活性化します。
- ・地域住民による地域の歴史・文化遺産の保存・活用等の取組を支援すると

もに、子どもの頃から地域の歴史・伝統・文化に触れ親しむ機会を提供することにより、地域への愛着と誇りを醸成します。

- ・岡山城、岡山後楽園や吉備路等の岡山を代表する地域資源について、県や関係団体等との連携・協働により、その魅力を高めて発信します。
- ・豊富な観光資源をいかした市内外との交流を進め、地域の観光ボランティア等との連携により訪れる人を温かくおもてなしします。
- ・地域との連携により、多様で豊かな自然環境と触れ合うことのできる環境づくりや、身近な自然環境を保全する担い手づくり等を進めます。
- ・歴史・伝統・文化や、美しい自然、豊富な特産品など、各地域の彩り豊かな魅力についてInstagram等を活用し積極的に発信します。



建部井堰

方向性6 地域特性に応じた交通利便性の向上

① 公共交通等の利便性向上

- ・各地域とまちなかをつなぐ公共交通の利便性向上を図るとともに、周辺を含む沿線地域の活性化や観光振興を図ることを目的に桃太郎線LRT※化の取組を推進します。
- ・一宮方面、津高方面、庭瀬方面において、駅や身近な生活関連施設への路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- ・まちなかの回遊性の向上に向け、路面電車の岡山駅前広場への乗り入れや延伸、環状化等を進めます。
- ・まちなかでの自転車通行空間の整備や駐輪場整備等の放置自転車対策、シェアサイクル「ももちやり」※のリニューアルによる利便性向上・利用促進に取



ももちやり

り組みます。

② 生活交通の確保

- ・中山間地域における生活交通を確保するため、現在、生活交通が運行されている御津、建部地域、足守地域及び馬屋上・野谷、牧山地区では、利用促進と運行サービスの改善に取り組みます。
- ・その他の公共交通不便地域※においても、地域住民及び交通事業者との連携により、買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。

③ 道路ネットワークの充実・強化

- ・都心部への車流入の減少や周辺道路の渋滞緩和を図るため、都市計画道路下中野平井線（中環状線）、都市計画道路米倉津島線（中環状線）等の幹線道路の整備を進めます。
- ・都心部への交通アクセス性の向上や御津、建部など周辺の地域における円滑な移動を確保するため、県道等幹線道路の整備を進めます。

中区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・中区は旭川の東、市のほぼ中央に位置し、面積は約51㎢と市全体に占める割合は約6%で、4区の中で最小となっています。
- ・北には龍ノ口山、中央には操山の丘陵地があり、西には旭川、東にはその放水路である百間川が流れ、南部には児島湾に面した干拓による豊かな平野が広がっています。
- ・区域の約半分が都市的土地利用されており、宅地の占める割合が3割を超え、4区の中で最も高くなっています。
- ・都心部から連続した市街地が広がっており、職と住が近接したベッドタウンとしての性格を有しています。
- ・市街地は大きく分けて、旧城下町の一部として古くから発展してきた東山・操山より西の旭川沿いの地域、操山より北で国道250号及び山陽本線に沿って東西に連続する地域、操山より南の県道岡山牛窓線に沿って住宅開発が進められてきた地域に分けられます。
- ・南部には米作を中心とした優良農地が広がり、農業生産の重要な役割を担っています。
- ・岡山港（高島地区）（通称：新岡山港）周辺や広域幹線道路沿線には、工業・物流機能が集積しています。

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は149,232人で市人口の20.6%を占めています。
- ・直近5年間の人口動態をみると、自然減の拡大により令和4年からマイナスで推移しており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年1月1日現在の人口は、147,187人となっています。

- ・高齢化率は、26.1%と市平均の26.4%よりも若干低く、年少人口比率は、14.4%と市平均の13.2%を上回り、4区の中で最も高くなっています。
- ・1世帯当たりの人員は、2.23人であり、単独世帯※の割合は4区の中で2番目に高く37.1%となっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は1.8%で、約2,700人が居住しています。（令和6年12月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口※が夜間人口※を下回っており、その差がマイナス方向に拡大傾向となっています。市内他区での従業・通学の割合が4区の中で最も高くなっています。



上空から見た中区の風景

<地域資源>

歴史・伝統・文化	・龍ノ口山の南麓には、この地域が備前地域の中心地であったことを示す賞田廃寺、幡多廃寺等の古代寺院跡や律令時代の備前国庁跡があり、操山周辺には金蔵山古墳等の古墳群や、曹源寺、安住院等の歴史・文化遺産が存在します。 ・操山には、宇喜多直家の生涯最大の合戦とされる「明禅寺合戦」の舞台となった明禅寺城跡が、龍ノ口山には龍ノ口城跡が残されています。 ・津田永忠による倉田新田・沖新田開発、倉安川、百間川開削等の大規模な農業・土木遺産のほか、旭川のケレップ水制※群等の土木遺産が存在します。令和元年には、約50年に及んだ百間川の改築が完了するとともに、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」が世界かんがい施設遺産※に登録されました。 ・岡山藩の医学館に始まり、旧制第六高等学校や岡山師範学校など、数多くの学校を有してきました。 ・世界初の点字ブロックの設置、児童福祉の父と呼ばれる石井十次や岡山博愛会のアリス・ペティー・アダムスが活動するなど、福祉分野において先駆的な取組がなされてきた伝統があります。
自然・景観	・龍ノ口山と操山は市街地に隣接する里山※として、景観、生物多様性※の面から貴重な緑地となっており、市民に憩いの空間を提供しています。 ・旭川、百間川のほか、倉安川、祇園用水等の水路群が豊かな水辺空間を形成しており、水路の中にはアユモドキ※（天然記念物）が生息する地域があります。 ・高島・旭竜地域は都心部に近い地域でありながら、市内でも有数のホタルの生息地となっています。 ・旭川左岸の蓬莱橋から相生橋までの約1キロにわたり美しい桜並木が続く「旭川さくらみち」では、毎年「岡山さくらカーニバル」が開催され、多くの花見客で賑わっています。

特産品	・農産物：沢田の柿、酒米最高品種の雄町米等 ・その他：高島のお飾り、全国名水百選の一つ雄町の冷泉、日本酒や地ビールなどの酒類、和菓子
公共施設	・操山公園里山センターは、市民の自然体験活動の拠点となっています。 ・岡山の海の玄関である岡山港（高島地区）（通称：新岡山港）は、岡山と小豆島とを結ぶフェリーの発着口として利用されています。 ・大学が2校、高等学校が6校あり、文教地区としての機能を担っています。 ・スポーツ施設として、百間川緑地や奥市公園があります。 ・「旭川・百間川ランニングコース」は、豊かな水辺の自然を楽しみながらランニングやウォーキングを楽しめるコースで、毎年1月には、県下の市区町村対抗の「晴れの国岡山」駅伝競走大会が開催されています。
主な市の出先機関	・中区役所、富山地域センター ・中区福祉事務所、中区保健センター ・公民館（操山、東、操南、富山、高島、東山）



曹源寺

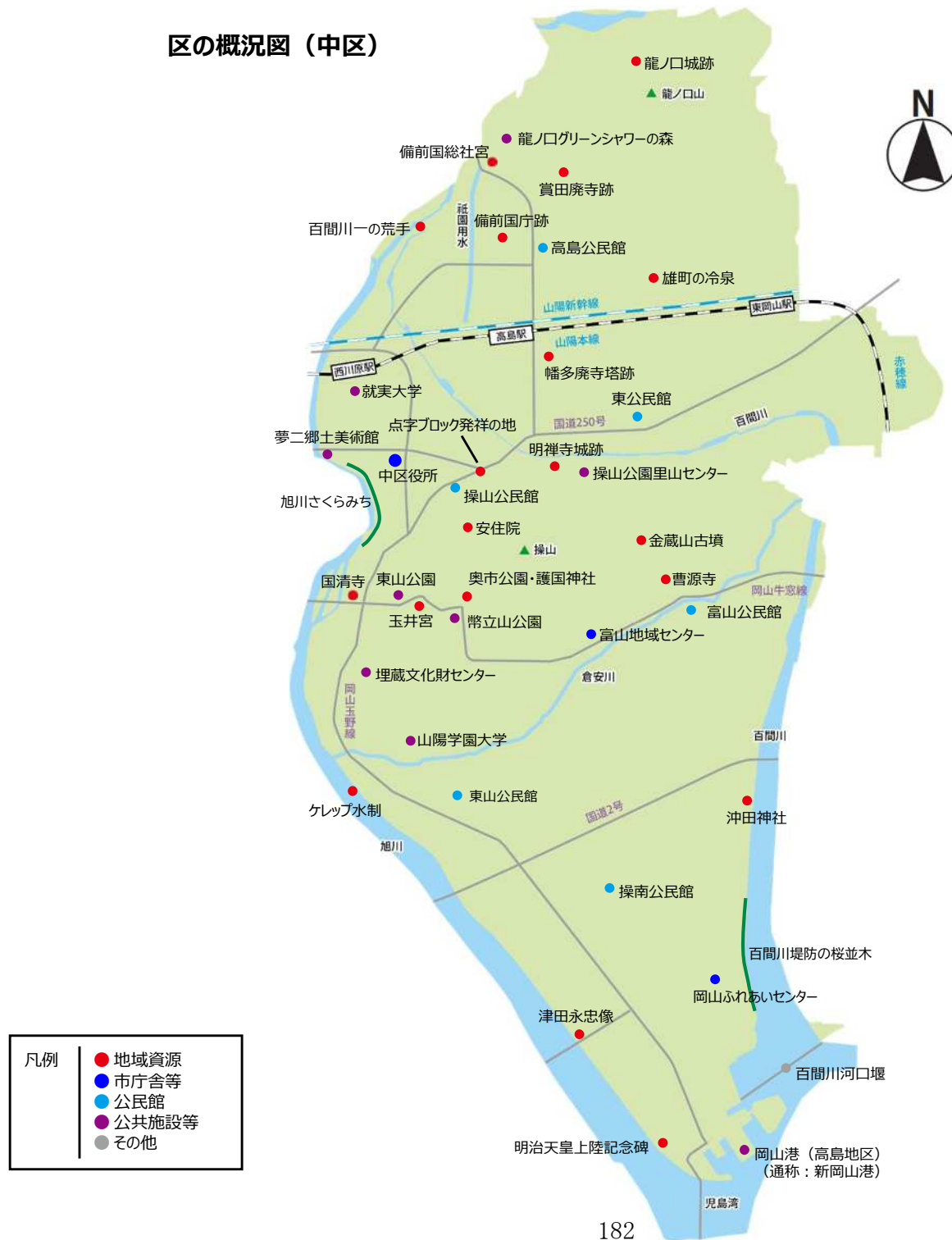


点字ブロック発祥の地



岡山さくらカーニバル

区の概況図（中区）



2 現状と課題

<交通>

- ・都心部に向かう旭川等の橋近辺や県道岡山牛窓線など片側1車線のみの一部幹線道路等では、通勤時の慢性的な渋滞やそれに伴うバスの遅れ等も生じており、対策の一環として、令和6年度に市道錦町古京町線の拡幅工事が完工しています。
- ・交通渋滞の解消、主要な公益的施設への交通アクセス性の向上が求められており、地域の活力や日々の暮らしを支えるため、引き続き、外環状線・中環状線等の幹線道路整備を推進する必要があります。
- ・利便性の高い公共交通を確保するため、公設民営方式を導入した支線バスとして「高島・旭川荘線」や「高島・備前原線」、「東山・操南台団地線」の運行を開始しています。引き続き、利用促進や運行サービスの改善に取り組む必要があります。
- ・自転車通行空間ネットワークについて、路線を選定し、一部路線の事業に着手しており、引き続き、市民ニーズの高い自転車利用環境の向上を図る必要があります。



支線バスFLAt

<自然・生活環境>

- ・操山、龍ノ口山、アユモドキが生息する祇園用水等の水路群、ホタルの生息地である高島・旭竜地域をはじめ、多様で豊かな水と緑の空間は、市民共有の財産です。引き続き、認定地区を増やしてきた「身近な生きものの里」事業等を通じて、区民とともに地域の生態系や自然環境を守り、次世代へ継承

していく必要があります。

- ・中区管内の里山周辺では、鳥獣被害が緩やかに増加しており、地域住民と協力しながら鳥獣被害対策に取り組む必要があります。
- ・老朽化が進行する高島市営住宅では、入居者の安全・安心や住環境の面での課題があり、再整備を行う必要があります。
- ・平成10年に先行取得した図書館整備用地（中区高屋）が未活用となっています。



アユモドキ

<特色ある地域づくり>

- ・地域ブランドとして操山北麓の沢田地域では沢田の柿、龍ノ口地域では酒米として雄町米が生産されており、雄町米を使用した日本酒のPR活動が県内外で行われています。
- ・区内を流れる旭川、百間川には、区民が身近に水辺で憩えるよう、親水公園やボートコース等の施設が整備されています。
- ・操山周辺には、曹源寺等の歴史・文化遺産も多く存在し、これらを歩いて巡ることのできる遊歩道が整備されています。
- ・地域の歴史・文化遺産の由来を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）を設置し、地域の歴史・文化を学び、楽しむ機会を増やしてきました。引き続き、地域の歴史・文化遺産や地域特産品等の積極的な活用が必要です。
- ・中区では、各地域におけるイベントや活動、魅力的な地域資源、道路・河川等の整備状況等をインスタグラムで情報発信しており、引き続き、積極的な発信等を通じて、区民の地域への愛着や誇りの醸成へとつなげる必要があります。

＜コミュニティ・健康づくり＞

- ・少子高齢化や価値観の多様化に伴い、町内会の加入率は低下傾向にあります。高度経済成長期に開発された団地等、近年高齢化が急速に進んだ地域では、地域団体の構成員の高齢化が進んでおり、新たな担い手の育成等により、持続可能な地域づくりを進めていく必要があります。
- ・中区では、地域住民による助け合いの仕組みづくりや、中高生ボランティアの地域活動への参加など多様な担い手が参画する主体的な課題解決のための取組が進んでいます。
- ・中区役所と区内にある大学との間で包括的な連携協定を締結しており、地域福祉、地域の活性化のための人材育成等について相互協力を進め、高齢者の健康チェックや子どもの居場所へのボランティア派遣等を行っています。
- ・引き続き、暮らしやすい地域づくりに向けて、中高生等の若者をはじめとした住民の地域活動への積極的な参加を促進するとともに、地域団体、NPO※、企業、大学など、多様な主体の力をいかし、協働による取組を拡大していく必要があります。
- ・健康市民おかやま21※の推進体制により、特に小・中学校と連携して喫煙防止や食育等の啓発活動を進めており、今後は、子どもの保護者など幅広い世代に向けた健康づくりを促進する必要があります。



選挙啓発ワークショップ

＜防災・防犯＞

- ・南海トラフ巨大地震※等による津波の発生時には、操山以南の海拔ゼロメートル地帯を中心に多くの被害が発生するおそれがあります。いつ起こるかわからない津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるためには、日頃から住民の危機意識を醸成し、防災意識を高め、災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- ・台風や頻発する集中豪雨のため、市街地等で内水はん濫による浸水被害が発生しており、引き続き、倉安川の改修や水位の事前調整など、ハード・ソフト両面から浸水対策を進める必要があります。
- ・地域の防犯対策として、防犯灯や防犯カメラの新設や更新に対する補助を実施しています。
- ・通学時の見守りや地域パトロールなど、地域の防犯に重要な役割を果たしている防犯ボランティア団体では、多くの団体で高齢化、担い手不足が課題となっており、地域防犯活動の活性化に向けた取組を進める必要があります。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施しており、引き続き取り組んでいく必要があります。



護岸整備後の倉安川

3 区づくりの将来目標

多様な世代がつながり、誰もが暮らしやすさを実感できるまち 中区

旭川や百間川、操山、龍ノ口山に代表される豊かな水や緑に囲まれ、都心部から連続した市街地が広がる中区の特性をいかし、誰もが暮らしやすさを実感できるまちづくりを進めます。また、地域での支え合いや多様な世代間の交流が活発に行われる地域づくりを進めるとともに、豊かな地域資源の積極的な活用・発信により、区民が地域に愛着と誇りを持ち、住み続けたいと思える中区をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

「自然」と「便利さ」が調和する住の魅力を高める

- ・都心部へのアクセス性に優れ、職住近接を可能とする利便性の高い住環境と豊かな自然環境が調和した中区の特性をいかしつつ、交通利便性の向上など、生活環境の充実等をさらに図ることにより、誰もが快適に暮らしやすいまちづくりを進めます。

視点 2

豊かな地域資源をいかし、地域への愛着と誇りを醸成する

- ・暮らしに憩いと潤いをもたらす豊かな水と緑の環境を区民と協力しながら守り、次世代へ継承していきます。
- ・各地域に息づく歴史・文化遺産や特産品等の地域資源を活用、発信していくことにより、区民の地域への愛着と誇りを醸成します。

視点 3

多様な世代が交流し、地域の担い手が活躍する

- ・地域団体、NPO、企業、大学等の多様な主体がつながり、中高生等の若者を巻き込みながら、様々な世代が活発に交流する、持続可能なまちづくりを進めます。
- ・地域の防災・防犯力を高め、自助・共助の取組を進めることにより、災害に強く、犯罪の少ない安全安心なまちづくりを進めます。
- ・地域での健康づくり活動や見守り、支え合いにより、誰もが住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 交通利便性の向上

- ・交通渋滞の解消、都心部への交通アクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、都市計画道路下中野平井線（中環状線）、県道岡山赤穂線（外環状線）等の幹線道路の整備を進めます。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、沖元・平井方面において、バス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- ・地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通※の導入について検討します。
- ・自転車利用環境の改善を図るため、自転車通行空間等の整備を進めます。



下中野平井線完成イメージ

方向性2 豊かな自然環境の保全と生活環境の整備

- ・操山公園里山センターでの自然保護に関する活動・交流の場の提供や、センターボランティアとの協働による自然観察会・講座等の開催を通じて、自然と人との関わり方や里山を守り育てるための情報提供、意識啓発を図ります。
- ・アユモドキやホタルなど、地域の身近な野生生物をシンボルにした市民主体の自然保護活動への支援やエコボランティアの育成等を通じて、地域の自然環境保護に取り組む担い手づくりを推進します。
- ・有害鳥獣による農作物被害を防止するため、実態調査の実施、関係団体や地域との協働による啓発、防護、捕獲等の活動を通じて、有害鳥獣に強い地域づくりを推進します。
- ・高島市営住宅の建替えにあたり、入居者の安全・安心や住環境の改善を図る

とともに、民間活力を導入した余剰地の活用により、入居者及び周辺住民の居住性や生活利便性の向上を目指します。

方向性3 地域資源の活用と発信

- ・雄町米を使用した日本酒や、沢田の柿、和菓子などの地域特産物について、引き続き、県内外でPR活動を行うことにより、岡山の誇れるブランドとして守り育て、次世代へつなげます。
- ・旭川、百間川沿いの水辺空間、操山などの里山、曹源寺をはじめとする歴史・文化遺産をウォーキングコースとして活用するなどにより、地域の魅力の再発見や市民の健康づくりにつなげます。
- ・地域の歴史・文化遺産や地域特産物を活用した区まちづくり独自企画事業の実施や区の魅力を積極的に伝えることにより、地域の活力を高め、地域への愛着と誇りを醸成します。



区まちづくり独自企画事業

方向性4 多世代の交流・協働による地域・健康づくり

- ・地域の様々な行事等の交流の場を通じて、住民同士の交流が促進され、いざという時に地域で支え合えるよう、地域の結びつきを支援します。
- ・地域活動の担い手を育成するため、子どもから大人までが参加しやすいイベントづくりやSNSを通じた様々な情報発信により、若年層の地域活動への参加を促進します。

- ・区づくり推進事業等を活用し、地域住民の主体的な交流・活動を支援するとともに、公民館と連携した地域活動やボランティア活動を推進します。
- ・また、環境美化への協力や地域イベントへの協賛等の企業参加や区内の大学や高校との連携を進めます。
- ・大学・短大の看護や教育等の専門性を区民の健康づくり、認知症予防や人材育成につなげるとともに、学生の地域活動への参加を促進し、多世代の交流等による地域活性化を図ります。
- ・健康づくりの啓発について学校との連携を進め、次代を担う子どもだけでなく、その保護者に対する啓発にも取り組みます。



区づくり推進事業

方向性5 地域との連携による防災・防犯力の向上

① 地域防災力の向上

- ・南海トラフ巨大地震や集中豪雨等の災害に備えるため、自主防災組織※の結成や育成を促すとともに、町内会や自主防災組織が実施する防災訓練等を支援し、地域防災力の向上を図ります。
- ・要配慮者への支援体制を充実させるため、地域と連携して、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。
- ・災害時に備え、食料や資機材を分散備蓄するとともに、災害時の避難所運営の在り方について、地域や学校等と検討を進めます。



自主防災組織による防災訓練

- ・津波災害や浸水被害等に迅速的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップ※の普及や出前講座※の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。

② 津波・浸水対策

- ・津波や大雨による浸水被害を軽減するため、国、県による旭川の護岸整備や沿岸部の津波・高潮対策を促進するとともに、倉安川の護岸整備や河床掘削等の河川改修、排水機場の整備・更新、用排水路の整備・改良等のハード整備を進めます。
- ・町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布を行うとともに、事前に大雨が予想される場合には、地域の水利権者等の協力のもとで用水路の事前水位調整を行うなど、ソフト対策を推進します。

③ 地域防犯

- ・防犯ボランティア団体に対する情報提供や研修等を実施するとともに、区民への防犯活動の紹介などを通じて、地域防犯活動の活性化を図ります。
- ・警察や防犯団体と連携した啓発活動の実施など、関係団体との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や、防犯カメラの設置等を支援することにより、街頭犯罪や少年非行を防止し、犯罪のない社会づくりを進めます。

東区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・東区は市の南東部に位置し、平成19年の合併による旧瀬戸町地域を含み、区域の面積は約161㎢で本市の約20%を占めています。
- ・一級河川の吉井川が区域を貫流し、中央には芥子山があり、南は児島湾と瀬戸内海に面し、沖合には市内唯一の有人離島である犬島があります。
- ・土地利用状況では、山林や田、畑などの自然的土地利用の割合が約8割を占めています。
- ・吉井川は、散策やスポーツ等の身近な憩いの場として親しまれています。また、吉井川、百間川の河口一帯には、干拓による広大で豊かな農地が広がり、良好な自然景観を形成しています。
- ・西大寺地域は、東備地域の中心地であり、北前船や高瀬舟が寄港する吉井川河口の港町として、また、西大寺観音院の門前町として発展してきた経緯から、行政・商業機能等が集積しています。
- ・県道岡山牛窓線沿線や上道地域では市街化が進展するとともに、臨海部、新産業ゾーン※、瀬戸地域、上道地域には工場が集積し、本市の製造業の中核を担っています。
- ・瀬戸地域は、山陽自動車道へのアクセスが良好なことなどから、数多くの企業が進出するとともに、県南都市圏の近郊住宅地としても発展してきています。



吉井川



新産業ゾーン

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は93,108人（市人口の12.8%）と、4区の中で最少となっています。
- ・直近5年間の人口動態をみると、一部年次を除いて社会減と自然減の状況が続いており、岡山県毎月流動人口調査での令和7年1月1日現在の人口は、89,543人となっています。
- ・高齢化率は、31.2%と4区の中で最も高くなっています。一方、生産年齢人口の割合は56.9%、年少人口比率は11.9%と、いずれも4区の中で最も低くなっています。
- ・1世帯当たりの人員は、2.42人と4区の中で最も多く、単独世帯※の割合は、29.4%と4区の中で最も低くなっています。また、夫婦と子どもからなる世帯の割合は、28.3%と南区に次いで高くなっています。
- ・区民のうち外国人住民が占める割合は2.2%で、約2,000人が居住しています（令和6年12月末現在、住民基本台帳）。
- ・昼間人口※が夜間人口※を下回っており、流出超過となっていますが、その差は縮小傾向にあります。地域別にみると、北区への流出超過数が最も多く、次いで隣接する他市（備前市、瀬戸内市）が多くなっています。

<地域資源>

歴史・伝統・文化	・室町時代から500年以上の歴史を誇る西大寺会陽（はだか祭り）は、平成28年3月に国の重要無形民俗文化財に指定されました。 ・西大寺観音院や国指定史跡の浦間茶臼山古墳、大廻小廻山城跡、万富東大寺瓦窯跡等の歴史・文化遺産が数多く残されています。また、吉備最古の大型前方後円墳である浦間茶臼山古墳が『桃太郎伝説』の生まれたまち「おかやま」の、西大寺観音院や吉井川沿岸常夜燈群などが「北前船寄港地・船主集落」の日本遺産※構成文化財に追加認定されています。 ・城下町岡山の礎を築いた宇喜多直家・秀家親子ゆかりの乙子城跡、亀山城（沼城）跡等の史跡や、津田永忠による幸島新田、沖新田開発という歴史に残る業績が残されています。また、倉安川の取水口にある倉安川吉井水門は、令和元年に、「倉安川・百間川かんがい排水施設群」として、世界かんがい施設遺産※に登録されました。 ・吉井川の港町として栄えてきた五福通り周辺は、伝統的な建造物群による景観が評価され、映画やドラマのロケ地となっています。
自然・景観	・犬島には、かつての銅精錬所の遺構を保存・再生した犬島精錬所美術館があり、瀬戸内国際芸術祭を契機に観光地として脚光を浴びています。 ・豊地域のナゴヤダルマガエル、瀬戸地域のアユモドキ※や宗堂桜、大宮地域のホタルなど、希少な動植物が生息し、各地域で保全活動が行われています。 ・朝日地域からは、瀬戸内の多島美を楽しむことができます。
特産品	・農産物：上道・古都地域のニューピオーネ、雄神地域のあたご梨、上南地域のイチゴ、瀬戸地域の太秋柿・白桃等 ・海産物：朝日・九幡地域のノリ

公共施設	・区域の中心部には、東区役所をはじめ市の関係機関があり、これらに隣接して、西大寺緑花公園、体験学習施設である百花プラザがあります。 ・上道地域には、農業公園として整備された三徳園があります。 ・スポーツ施設として向州公園、六番川水の公園、瀬戸町総合運動公園等があります。また、政田サッカー場はファジアーノ岡山の練習拠点にもなっています。 ・犬島には、自然の家、キャンプ場等が整備されています。
主な市の出先機関	・東区役所、瀬戸支所、上道地域センター、市民サービスセンター（古都、朝日） ・東区福祉事務所、東区保健センター ・公民館（旭東、西大寺、山南、上道、上南、瀬戸、万富）



西大寺観音院



浦間茶臼山古墳



宗堂桜



芥子山



犬島



政田サッカー場

区の概況図（東区）



2 現状と課題

＜特色ある地域づくり＞

- ・西大寺地域の中心部における「西大寺ファンタジー」や「西大寺朝市」、瀬戸地域における「三谷公園もみじフェスタ」など、地域が主体となったイベントが開催されています。
- ・スポーツ・文化活動が活発で、「東区スポーツ大会」や「郷土芸能フェスティバル」等に加え、区民主導での「おかやま西大寺マラソン」が開催されています。また、政田サッカー場では、ファジアーノ岡山との連携により、子ども向けサッカー教室が開催されています。
- ・伝統的な建造物群が残る五福通りでは、まちなみの保存と活用が求められており、地域主体の「西大寺五福通りレトロ・マルシェ」が開催されています。
- ・「西大寺会陽」には、外国人を含む多くの観光客が訪れ、海外マスメディアにも多く取り上げられています。また、犬島は、瀬戸内国際芸術祭の開催により文化・芸術の島として注目されています。
- ・地域の歴史・文化遺産の由来等を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）の設置や、地元高校生や大学生との協働による地域の活性化や魅力の再発見を図る事業を実施しています。新たな人を呼び込むためにも、特色ある行事やイベント等を継承し、活動を担っていく人材の育成を進めるとともに、様々な地域資源を活用し、その魅力を発信していくことが求められています。
- ・東区役所、西大寺緑花公園や複合商業施設が整備された「元気な新拠点」は、地域の交流の場としての一層の活用が期待されています。
- ・地域固有の魅力ある資源をいかす取組を、区民をはじめNPO※や企業等の多様な主体と協働して進めることが求められています。



西大寺ファンタジー



西大寺会陽

- ・身近で魅力のあるまちづくりや地域課題の解決のため地域資源や特色をいかしたまちづくりを進めていく必要があります。

＜人口・コミュニティ＞

- ・国勢調査でみると、平成22年をピークに既に人口減少期に突入しており、人口減少率が高い地域も存在します。
- ・単身高齢世帯の割合は低いものの、山間部や田園地帯、モータリゼーション※の進展に伴い開発された大規模団地等で、高齢化率が特に高い地域があります。
- ・町内会加入率は、4区の中で最も高いものの、近年低下傾向にあります。
- ・持続可能な地域づくりを進めるため、高齢者をはじめ多様な年代の区民が集い交流できる環境の整備や、若者をはじめとする新たな担い手の育成等により、地域コミュニティの活性化を図る必要があります。

＜産業・農業＞

- ・産業別の付加価値※額では、第2次産業の割合が4区の中で最も高くなっています。また、全産業に占める製造業の割合も4区の中で最も高くなっています。
- ・瀬戸インターチェンジや産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。
- ・南部の広大な干拓地では、米麦の生産が盛んであり、特に小麦の作付面積は県下で約7割を占めています。その他区内各地域では、ブドウ、白桃、梨、イチゴなどの果樹栽培で高付加価値型農業※が行われていますが、農業後継者不足や耕作放棄地の増加、鳥獣被害増加等の課題があり、持続可能な農業の振興を図る必要があります。

<交通>

- ・広域的な交通ネットワーク強化や高速道路へのアクセス強化等のため、地域高規格道路である美作岡山道路の整備を進めています。
- ・外出する際に自家用車を利用する区民の割合が高く、都心部へのアクセス集中がみられることから、県道岡山赤穂線（外環状線）や市道西大寺上中川町1号線などの幹線道路の整備、上道駅へのエレベーター設置や駅前広場整備による鉄道の利用環境改善などにより、交通利便性の向上に努めてきました。
- ・引き続き、地域の活力や日々の暮らしを支えるため、幹線道路等の整備やボトルネック交差点※の改良による渋滞対策、バス路線の再編などによる公共交通の利便性の向上を図る必要があります。
- ・千種地区、角山地区、城東台・草ヶ部地区、朝日地区及び幸島地区では地域住民及び交通事業者との連携による生活交通※が導入されています。
- ・今後、高齢化が一層進むことが見込まれることから、公共交通不便地域※において買い物や通院等の日常生活に必要な移動手段を確保していく必要があります。

<健康づくり>

- ・これまで、健康市民おかやま21※東区地域推進会議では、区民主体の健康イベントや、ええとこ発見図※を活用したウォーキング大会の開催などにより、歯と口腔、身体活動・運動について重点的に取り組んできました。今後は、栄養・食生活を通じた健康づくりを進めるなど活動の幅を広げるとも



市道西大寺上中川町1号線整備状況

に、区全域だけでなく、中学校区又は小学校区単位での推進組織をいかし、地域の特性に合わせた健康づくり活動を進めていく必要があります。

<防災・防犯>

- ・集中豪雨や台風の際に、砂川流域では浸水被害、東南部の瀬戸内海沿岸部では高潮被害が発生しており、平成30年7月豪雨時には砂川の一部決壊により甚大な浸水被害が発生しました。また、南部の干拓地を中心に、南海トラフ巨大地震※等での液状化や津波による浸水被害等が起こる可能性が指摘されています。そのため、国、県と連携しながら災害に強い地域づくりを進める必要があります。
- ・各地域では、防災訓練や防犯灯・防犯カメラの設置等、地域防災・防犯の担い手である町内会、安全・安心ネットワーク※、自主防災組織※等の地域団体による防災・防犯活動が活発に行われていますが、構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。地域団体の自主的な活動を維持・強化するための支援を行うとともに、非常時に備え、平素からの普及啓発活動等に取り組む必要があります。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施しており、引き続き取り組んでいく必要があります。



東区総合防災訓練

3 区づくりの将来目標

歴史が息づき、愛着と誇りの持てる いつまでも住みたいまち 東区

まちに息づく特色ある歴史・伝統・文化と豊かな自然環境等の地域資源の魅力をいかしながら、地域で生まれ育った若者をはじめ、誰もが地域に愛着と誇りをもち、いつまでも住み続けたい、帰ってきたいと思えるまちづくりを進め、人口減少社会が既に到来している中であっても、持続可能で活力ある東区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

特色ある歴史・伝統・文化をいかし、地域の魅力を高める

- ・東区固有の歴史・伝統・文化をいかしたまちづくりにより、区民の地域への愛着と誇りを醸成します。
- ・地域との協働により各地域で特色ある行事・イベントを開催するとともに、様々な地域資源の魅力を積極的に発信することにより、区内外の交流や多世代のふれあいを活発化させ、賑わいのある、人を呼び込むまちづくりを進めます。

視点 2

産業・農業を振興し、地域経済を活性化する

- ・企業立地の推進等を通じて産業を振興し、雇用の場を創出するとともに、魅力ある農業を振興することにより、地域経済を活性化させ、持続可能なまちづくりを進めます。

視点 3

自然と共生し、より快適で安全・安心な暮らしを実現する

- ・交通利便性の向上等により生活の質を高めるとともに、健康づくりを充実させることにより、あらゆる世代が豊かな自然と共生しながら快適で健やかに暮らせるまちづくりを進めます。
- ・地域の防災・防犯力を高め、みんなで支え合い、子どもから高齢者まで誰もが安心して暮らすことのできる、安全・安心なまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域資源をいかした魅力と賑わいづくり

- ・地域との協働により、各地域の伝統行事・イベント等の一層の魅力向上に努め、多くの人の来訪につなげます。また、様々な行事を継承するため、活動を担う人材の育成を進めます。
- ・「岡山歴史のまちしるべ」等の活用により、区民や観光客がまち歩きを楽しみながら歴史・伝統・文化への理解を深められる環境づくりを進めます。
- ・五福通り周辺の地域住民による主体的なまちなみの保存や活用への取組を支援します。
- ・各地域固有の歴史・伝統・文化等の観光資源について、地域住民、周辺市町、関係団体との連携を図りながら効果的な活用を進めるとともに、国内外にその魅力を積極的に発信し、観光客の増加、周遊促進を図ります。さらに、国指定史跡である万富東大寺瓦窯跡の史跡整備、大廻小廻山城跡の公有化も進めます。
- ・岡山市と瀬戸内市に共通する観光資源などをいかし、観光連携事業の企画、実施や観光客誘致のためのPRを行うことにより、両市における観光客の周遊促進を図ります。
- ・地域の交流の場である「元気な新拠点」の活用を促進し、賑わいの創出につなげます。
- ・ファジアーノ岡山と連携した地域スポーツの振興を促進します。
- ・地域住民をはじめ、NPOや企業等による地域課題解決に向けた取組や地域資源を活用した活力創出の取組に対する支援を進めます。
- ・地域団体・高校・大学等と連携した区まちづくり独自企画事業を実施することにより、郷土愛の醸成や魅力再発見、地域の活性化等を図ります。
- ・主に中山間地域等への人材の誘致及び地域住民との協力による地域活性化の促進を図ります。



区まちづくり独自企画事業
(あそびひろば in 東区)

- ・西大寺駅周辺地区において街路樹や都市公園樹木のボリュームアップなどを進め、季節の移り変わりが感じられるような魅力ある都市空間づくりを進めます。

方向性2 多世代が交流・活動できる地域づくり

- ・区づくり推進事業等を活用しながら、地域のアイデアをいかした取組を促進し、地域住民が主体的に進める地域づくりを支援します。
- ・町内会をはじめとした地域団体と小・中・高等学校、大学等の学校や事業者等との連携を進め、若者や働く世代を含めた多世代の地域活動への参加を促進します。
- ・地域活動を担う人材の育成につながる講座等の開催などを通じて、地域の新たな担い手の確保・育成を図ります。
- ・地域の様々な行事等を通じた多世代の交流を促進するとともに、子ども、高齢者等を地域住民全体で見守り、支え合う地域づくりを促進します。

方向性3 企業立地の推進と持続可能な農業の振興

① 優位性をいかした企業誘致

- ・瀬戸インターチェンジや産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地域未来投資促進法※の活用や市街化調整区域※の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。



瀬戸インターチェンジ周辺

② 持続可能な農業の振興

- ・新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、大規模農家の法人化、付加価値の高い農産物の生産と販路拡大等、経営力の向上に向けた施策を推進するとともに、これを下支えするため、農地の大区画化や排水改良等を通じて農業生産性の向上を図ります。また、鳥獣被害対策として、農地への防護柵や捕獲檻の設置、DX※を活用した捕獲駆除等への支援を継続していきます。

方向性4 交通利便性の向上

- ・美作岡山道路の整備により、近隣の工業団地や住宅団地等から高速道路へのアクセスを強化するとともに、緊急時、災害時における交通の確保等を図ります。
- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、県道岡山赤穂線（外環状線）、県道岡山牛窓線、県道西大寺山陽線、市道西大寺上中川町1号線等の幹線道路の整備を進めます。
- ・ボトルネックとなっている交差点などを改良することにより、渋滞の緩和・解消を図ります。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、牛窓方面において、身近な生活関連施設へのバス路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。また、交通結節点機能の強化を図るため、上道駅のバリアフリー化と駅前広場の整備を進めます。
- ・生活交通の運行地域において、利用促進と運行サービスの改善に取り組みます。また、その他の公共交通不便地域では、地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。



県道岡山赤穂線完成イメージ

方向性5 健やかに暮らせる地域づくり

- ・地域の様々な団体が協力し、地域の魅力を再確認して作り上げたウォーキングマップ「ええとこ発見図」等を効果的にPRし、その活用を促進することにより、区民が地域の歴史・文化等への理解を深めながら、気軽に歩くことのできる機会の増加を図ります。
- ・地域の特性に応じた健康づくりを充実させるため、健康市民おかやま21東区地域推進会議の活動を進めていきます。

方向性6 安全・安心な地域づくり

① 津波・浸水対策

- ・津波・高潮被害や大雨による浸水等の被害を軽減するため、国、県による吉井川、砂川の早期改修、海岸堤防の津波・高潮対策等のハード整備を促進します。
- ・町内会への防災備蓄土及び土のう袋の配布や、用水路の事前水位調整、流末の遊水池の有効活用、河川からの取水調整、河川の水位上昇に伴う各種の操作等のソフト対策により、浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・災害による地域の被害を防止・軽減するため、地域防災リーダー※の育成や防災資機材の購入助成、防災訓練への支援等を通じて、自主防災組織の活性化と新規結成を促します。また、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。
- ・災害に備え備蓄物資の分散化を進めるとともに、集中備蓄倉庫※に備蓄物資を配備し、不足する備蓄物資を供給することができる体制を整えます。
- ・土砂災害や高潮被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップ※の普及や出前講座※の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。
- ・安全・安心ネットワーク等による子どもの登下校時の見守り活動や交通安全教室の開催等の自主的な活動を支援するとともに、防犯に関する出前講座の実施等により、防犯ボランティア団体の活動を活性化します。また、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を支援するとともに、警察や防犯団体等との連携を強化しながら交通事故や犯罪を抑制します。
- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等



集中備蓄倉庫

のソフト対策も実施していきます。

南区

1 概況

<地勢・都市環境>

- ・南区は市の南部に位置し、平成17年の合併による旧灘崎町地域を含み、区域の面積は約127㎢で岡山市の約16%を占めています。
- ・旭川右岸の干拓地と児島半島の丘陵地が、児島湾と児島湖を囲むように位置しており、東には旭川が児島湾に注ぎ、中央に笹ヶ瀬川、南部に倉敷川が日本最大の人造湖（ダム湖を除く）である児島湖に注いでいます。
- ・区域の過半が江戸時代以降の干拓地であり、南部には岡山市の農業の中心をなす広大な穀倉地帯が広がっています。経営耕地面積※は4区中最大で、その中でも田の割合が4区の中で最も高くなっています。
- ・区域の北部は、都心部から連続する市街地が広がっており、岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しています。
- ・道路は、東西に国道2号、南北に国道30号が整備されており、令和4年4月には市道藤田浦安南町線（外環状線）が開通しました。

<人口・世帯>

- ・令和2年国勢調査では、人口は167,828人（市人口の23.2%）と4区の中で2番目に多くなっています。
- ・直近5年間の人口動態をみると、社会減の拡大により近年マイナスで推移し続けています。岡山県毎月流動人口調査での令和7年1月1日現在の人口は、162,950人となっています。
- ・年少人口比率は、13.7%と平成27年から0.8ポイント減少し、高齢化率は、27.1%と平成27年から2.3ポイント増加しています。
- ・夫婦と子どもからなる世帯の割合が、28.9%と4区の中で最も高く、また、1世帯当たりの人員は、2.38人と4区の中で2番目に多くなっています。

- ・区民のうち外国人住民が占める割合は1.9%で、3,100人が居住しています。（令和6年12月末現在、住民基本台帳）。
- ・周辺地域への通勤・通学者等の流出により、昼間人口※が夜間人口※を下回っています。地域別にみると、北区への流出が最も多く、次いで隣接する他市（倉敷市、玉野市）が多くなっています。



上空から見た南区の風景

<地域資源>

歴史・伝 統・文化	・興除、藤田、灘崎地域には、県指定文化財である児島湾開墾第一区の樋門群など新田開発の歴史を今に伝える樋門、堤防等の農業・土木遺産が多くあります。 ・灘崎地域には、国指定史跡にも指定された西日本有数の縄文貝塚である彦崎貝塚や市指定史跡の常山城跡があります。 ・妹尾地域には、18世紀初頭に建立された本殿が残る栗村神社など多数の寺社が存在するほか、干拓地の飲み水確保の困難さを伝えるつちえの井戸等が残されています。 ・浦安地域には、岡山藩主の池田忠継廟等の歴史・文化遺産があります。	公共施設 ・浦安総合公園、灘崎町総合公園、山田グリーンパークなど、大規模な公園やスポーツ施設があります。 ・臨港グリーンアベニューや浦安緑道、妹尾緑道、十一番川緑地、福田緑道など、暮らしに潤いを与える緑道公園があります。 ・岡南地域には、野菜、果物、鮮魚等を供給する中央卸売市場、花を供給する地方卸売市場があります。 ・灘崎地域では、いちご狩りやぶどう狩りの体験施設や、地域で栽培された新鮮な農産物などを購入できるロードサイドマーケットがあるサウスヴィレッジが人気の施設となっています。 ・浦安地域には、小型機専用の飛行場である岡南飛行場があり、岡山市消防航空隊（消防ヘリコプター）の基地にもなっています。 ・岡山市消防教育訓練センター水難救助訓練施設（風水害体験エリア）には、住民が模擬体験を通して災害から身を守ることが学べる、全国でも珍しい風水害に特化した体験型の学習施設があります。
自然・景 観	・日本で最初の国立公園として指定された瀬戸内海国立公園内にある金甲山、貝殻山からは瀬戸内の多島美を一望できるほか、児島湖及び隣接する阿部池は多種のガンカモ類が越冬するなど、西日本でも有数の水鳥の観察地となっています。 ・迫川地域には、県南部最大級の桜である県天然記念物の大山桜があります。 ・児島湖周辺では市民の手により河津桜が植樹されています。 ・箕島地域や迫川地域では、これまでの地域住民によるホタルの保全活動により、毎年ホタルの生息が確認されています。	
特産品	・農産物：干拓地の米麦、藤田地域のレタス、たまねぎ、灘崎地域の千両なす等 ・海産物：小串地域のノリ	主な市の 出先機関 ・南区役所、灘崎支所、地域センター（妹尾、福田、興除、藤田、児島、福浜） ・福祉事務所（南区西、南区南）、保健センター（南区西、南区南） ・公民館（灘崎、福田、南、興除、芳田、福浜、藤田、妹尾、光南台、岡南）



大山桜



臨港グリーンアベニュー

区の概況図（南区）



2 現状と課題

<防災・防犯>

- ・国道2号以南の海拔ゼロメートル地帯においては、近年の線状降水帯や大型化する台風による集中豪雨を原因とする内水はん濫被害への対策を進める必要があります。また、児島半島地域では高潮被害が懸念されています。
- ・灘崎地域、児島半島地域の山間部では、大雨・長雨や地震等の地盤の緩みによる土砂災害の発生が懸念されています。特に、令和7年3月に発生した大規模な林野火災※による焼失区域の復旧等、関係機関に協力して進めていく必要があります。
- ・南海トラフ巨大地震※においては、広範囲で津波による浸水被害が発生する可能性が指摘されています。
- ・各地域では、安全・安心ネットワーク※、防犯パトロール隊等により、活発な防災・防犯活動が行われていますが、多くの団体で構成員の高齢化、担い手不足が課題となっています。災害に強く安全・安心な地域づくりに向けて、地域の防災・防犯活動の活性化を図る取組を進めるとともに、自主防災組織※の結成促進や、無関心層に対する啓発を一層行っていく必要があります。
- ・用水路の危険箇所については、計画的に転落防止柵の設置など安全対策を実施しており、引き続き取り組んでいく必要があります。

<農林水産業・産業>

- ・南部に広がる広大な干拓地では、米麦を中心とする農業が盛んであり、また、藤田地域のレタス、たまねぎ、灘崎地域の千両なすなど、高収益作物の栽培に取り組んでいます。引き続き、干拓地農地の規模的な優位性等をいかし、魅力ある農業の振興を推進する



千両なす

必要があります。

- ・農家戸数は減少傾向にあり、新たな担い手の育成や農地の集積・集約化を促進する必要があります。
- ・岡南地域には臨海工業地帯が広がるとともに、大規模商業施設が立地しており、地域の活力を一層高めるため、災害時の協力を含め企業とともに地域の活性化に向けた取組を進める必要があります。
- ・物流軸沿線や産業拠点の周辺など、産業利用の適地への企業の立地を進める必要があります。

<コミュニティ>

- ・町内会加入率は比較的高く、地域住民による清掃活動や不法投棄監視など、環境保全活動に加え、高齢者の増加に伴う住民同士の支え合い活動が地域ぐるみで行われるとともに、地域の事業者との連携により環境美化活動や植樹活動、防災訓練をはじめとする様々な地域活動が行われています。
- ・高齢化率が30%を超え、担い手が不足するなど、課題を抱えた地域もあることから、持続可能な地域づくりを進めるため、町内会等の地域コミュニティ活動の活性化を支援する必要があります。

<特色ある地域づくり>

- ・県天然記念物である奥迫川の大山桜や空き家跡地を活用した地域づくりなど、地域資源をいかしたイベントにより、世代間の交流を深め、地域の魅力を発信する取組が行われています。
- ・妹尾地域の音楽によるまちづくりや興除



地域で開催されるイベント

地域特産のお米、藤田地域の野菜にまつわるイベントなど、地域の新たな魅力づくりや人のつながりを深める取組が必要とされています。

- ・地域防災リーダー※の育成など、地域課題を解決するための取組が行われています。
- ・地域の歴史・文化遺産の由来を紹介する看板（岡山歴史のまちしるべ）を設置し、地域の歴史・文化を学び、楽しむ機会を増やしてきました。今後も歴史・文化遺産等の掘り起こし、情報発信を行うとともに、各地域での特色ある取組を地域間で情報共有することにより、それぞれの活動をより一層活性化することが求められています。

<交通>

- ・令和4年4月の市道藤田浦安南町線（外環状線）の開通等を通じて、朝夕のピーク時に発生している交通混雑の解消を図ってきました。引き続き、地域の活力や日々の暮らしを支える幹線道路の整備を進めていく必要があります。
- ・周辺地域を運行するバス路線が減便となるなど、公共交通の維持・改善が課題となる中、令和7年度に公設民営方式を導入した支線バスとして「妹尾・北長瀬線」、「妹尾・岡南線」の運行が開始されました。運行を開始した支線バスの利用率アップをめざすとともに、さらなる利便性向上を図るなど、引き続き公共交通の維持・改善に取り組む必要があります。



支線バス FLAt

- ・地域住民や交通事業者と連携し、生活交通※を運行している迫川地域では、停留所の追加や運行日の変更を行うなどの工夫により、利用促進を図ってきました。他にも日常生活における移動が不便な地域が存在しており、買い物や通院等、地域のニーズに合った移動手段を確保していく必要があります。

<健康づくり>

- ・健康増進、子ども・子育て支援など身近な交流の場である大規模公園等の利用・存在効果をさらにいかにする必要があります。
- ・区内には、高齢化率が高い地域も存在しており、公民館等と連携し、地域の特性に応じた健康づくりをさらに進める必要があります。
- ・中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21※の推進組織をいかし、多様な関係者との連携の幅を広げ、健康づくりを進めています。



浦安総合公園

3 区づくりの将来目標

実りの大地に、世代を超えて未来を育む つながるまち 南区

世界有数の人造湖である児島湖、瀬戸内海国立公園等の豊かな自然環境や、臨海工業地帯が広がり大規模商業施設が立地する岡南地域、都心部から連続する市街地など、多くの人や企業を惹きつける求心力あふれるまちづくりを進めます。

また、実り豊かな農産物を生み出す広大な干拓地での農業を次代に引き継ぎながら、地域資源をいかすとともに、地域のつながりや世代を超えた交流を大切に、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めることにより、子育て世代をはじめ、すべての世代が住み続けたいと思える南区の実現をめざします。

4 区づくりの重視すべき視点

視点 1

地域が一体となって、防災力を高める

- ・河川、沿岸部等の危険箇所への対策や避難所の環境整備等を充実させるとともに、自助・共助の精神で区民が互いに協力し合い、自分と大切な人の命を守るという意識を醸成することにより、地域防災力をさらに高めます。

視点 2

地域資源を輝かせ、わくわく感を創り出す

- ・岡山の食を支える農業を振興し、地域ならではの特産品を広く発信することにより、豊かで活力ある未来につながるまちづくりを進めます。

- ・歴史・伝統・文化などの特色をいかしたイベントや祭りに、若者や子育て世代などの幅広い世代が参加することで賑わいが生まれ、住む魅力に満ちた高揚感あふれる地域づくりを進めます。

視点 3

地域をつなげ、快適に暮らせるまちを実現する

- ・地域の抱える課題やニーズを踏まえながら、交通利便性の向上や生活交通の確保等を進め、生活環境の維持・向上を図ります。
- ・未来に向けて進化し続けるまちをめざし、世代や地域を超えたつながりを深め、区内外の交流を活性化することにより、子どもから高齢者まで、誰もがいきいきと暮らせる、住み続けたいと思えるまちづくりを進めます。

5 施策展開の方向性

方向性1 地域で取り組む防災・防犯対策の充実

①津波・浸水対策

- ・津波や台風、局地的な集中豪雨等による被害を軽減するため、国、県による海岸堤防、笹ヶ瀬川等の護岸の整備や耐震化を促進するとともに、令和7年5月に完成した浦安11号雨水幹線（1工区）をはじめ、引き続き雨水幹線整備等のハード整備に加え、用水路の事前水位調整等のソフト対策により、防災機能を強化します。



浦安11号雨水幹線

- ・高潮や浸水の危険が事前に予想される場合には、児島湖の管理者や上流地域の水利権者とも協力しながら水位調整を行うなど、広域での連携を通じて、浸水被害の軽減を図ります。また、町内会への防災備蓄土、土のう袋の配布等を通じた共助による浸水被害の軽減・防止を図ります。

② 地域の防災・防犯力の強化

- ・大規模な林野火災の焼失区域が従来の姿を取り戻すには長い年月を要しますが、土砂災害が起りやすくなっていることなどにも注意しながら、県など関係機関に協力して復旧等を着実に進めます。
- ・津波災害や浸水被害等に迅速・的確に対応し、被害を最小限にとどめるため、ハザードマップ※の普及や出前講座※の実施等により、日頃からの危機意識を醸成するとともに、避難方法等の一層の周知を図ります。また、地域との連携による避難所運営機能の充実強化を図ります。
- ・平成30年7月豪雨災害を教訓として、地域防災リーダーの育成、防災資機材の購入助成や防災訓練への支援等、自主防災組織に対する支援強化を図り、組織の活性化と新規結成を促進します。また、避難行動要支援者の個別避難計画の作成等を支援します。

- ・避難所においては、体調不良者への配慮や暑さ・寒さ対策など、避難所の環境改善に引き続き取り組んでいきます。

- ・子どもや若者が遊びを通じて楽しく学べる防災プログラムの提供や、令和7年5月にオープンした岡山市消防教育訓練センター水難救助訓練施設（風水害体験エリア）を活用し、防災への意識啓発を図ります。



水難救助訓練施設

- ・安全・安心ネットワーク等による防犯や交通安全のための自主的な地域の見回り活動を支援するとともに、防犯ボランティア団体への情報提供や研修の実施等により、活動の活性化及び地域の防犯意識の向上を図ります。
- ・犯罪や交通事故の減少等に向けた警察や防犯団体等との連携を強化するとともに、地域における防犯灯や防犯カメラの設置等を推進し、安全・安心に暮らせるまちづくりを進めます。
- ・用水路等の危険箇所に対する安全対策を図るため、引き続き転落防止柵等を設置するハード対策を行うとともに、啓発ポスターの掲示やチラシの配布等のソフト対策も実施していきます。

方向性2 活力のある農業・産業の振興

- ・持続可能な農業をめざして各種施策を国や県、農業者団体等と連携して推進します。また、干拓農地としての規模的な優位性や地理的利便性等をいかしながら、新規就農者等の担い手の確保、経営規模の拡大、低コストで付加価値※の高い農産物の生産とその販路拡大等により、経営力の向上を図ります。
- ・鳥獣被害対策として、農地の防護柵や捕獲檻の設置、捕獲駆除等への支援を継続していきます。
- ・主要な農業用排水施設の計画的で効率的な維持管理を行うとともに、農地の

用排水機能の強化等による生産性の向上を図ります。

- ・サウスヴィレッジでのイチゴやブドウなどの収穫体験や地元農家で採れた農産物の直売等を通じて、農業や食への関心を深めてもらい、都市と農村の交流促進を図ります。
- ・物流軸沿線や産業拠点の周辺などの産業利用の適地において、地域未来投資促進法※の活用や市街化調整区域※の開発許可制度の緩和により、工場や物流施設等の立地を推進します。

方向性3 多様な担い手の参加・協働による地域活動の活性化

- ・町内会や安全・安心ネットワーク等の地域コミュニティは、災害が起こった際の重要な役割を持つ「共助」を担う単位でもあることから、その活動の活性化を支援します。
- ・高齢化による担い手不足を解消し、地域活動を活性化させるために、地域における世代交流と地域活動への参加意識の向上を図ります。
- ・区づくり推進事業等を通じて、地域防災力の向上、地域文化の継承等の地域固有の課題を自ら解決しようとする地域活動を支援します。また、地域活動への参加を促進し、地域コミュニティの活性化を図ります。
- ・地縁団体のみならず、事業者、学校、NPO※、行政等の多様な担い手の相互理解やつながりを深めていくことにより、地域全体のまちづくり活動を活性化し、地域の一体感のさらなる醸成を図ります。

方向性4 地域の魅力の発掘・発信

- ・各地域にある美しい自然や固有の歴史・伝統・文化等を再認識し、地域への関心や愛着を高めるため、国指定史跡である彦崎貝塚に憩える芝生広場の整備や、自然環境豊かな瀬戸内海国立公園、地域の歴史・文化遺産の由来等を記した看板等を活用します。
- ・年間を通じて開催されている地域の特色あるイベント等を含め、南区の魅力

を広報紙やホームページ、SNS等により区内外に発信し、他地域との交流を促進します。

方向性5 交通の利便性の向上

- ・都心部へのアクセス性の向上や区内の各地域間の円滑な移動を確保するため、引き続き県道岡山児島線等の幹線道路の整備を進めます。
- ・公共交通の利便性向上を図るため、妹尾方面、岡南方面において、駅や身近な生活関連施設へのバス路線延伸などバス路線の再編に取り組むとともに、乗り継ぎ環境の整備を進めます。
- ・迫川地域で運行中のデマンド型乗合タクシー※のさらなる利用促進や運行改善を地域住民及び運行事業者と連携して取り組みます。また、他の公共交通不便地域※においても、地域住民及び交通事業者との連携により、日常生活に必要な移動手段を確保するための生活交通の導入を進めます。

方向性6 健やかに暮らせる地域づくり

- ・大型遊具で人気の浦安総合公園、家族連れでにぎわう灘崎町総合公園、山田グリーンパーク等の大規模公園やスポーツ施設等の地域資源をさらに充実させ子育てしやすいまちづくりを促進するとともに、子どもから高齢者までの健康づくりを進めます。
- ・地域の特性に応じた健康づくりをさらに進めるため、公民館、学校園、企業、各種団体の協力を得ながら、中学校区単位や保健センター単位で健康市民おかやま21の活動の充実を図ります。



サウスヴィレッジ